

閉会挨拶（2023年6月7日）

運輸総合研究所理事長の佐藤です。お疲れのところ恐縮ですが、閉会に当たり一言申し上げます。

まず、講演をしていただいた国交省の鶴田公共交通・物流政策審議官と東京大学の鎌田名誉教授、パネルディスカッションにご登壇いただいた岡山県久米南町の木多主任、ネクストモビリティの藤岡副社長、郡山観光交通の山口代表取締役、全国移動ネットの河崎副理事長、富山市の森前市長、福島大学の吉田准教授、長時間にわたりご参加いただいた大勢の視聴者の皆様、そして日頃より当研究所の活動をご支援いただいている日本財団に御礼を申し上げます。

本日のシンポジウムは、当研究所で一昨年度から実施してまいりました「高齢者等の移動手段確保方策検討に関する調査研究」の成果報告の場でもありました。この調査研究では、鎌田名誉教授を座長とし、河崎副理事長、森前市長、吉田准教授ほかの有識者から成る検討委員会において、本日報告いたしました提言を取りまとめていただきました。座長をお務めいただいた鎌田名誉教授に対し、改めて御礼を申し上げたいと思います。

私は、8回にわたる検討委員会の議論を傍聴して、一種「すがすがしい」気持ちになったことを覚えております。それは、今ご覧いただいている第3回検討委

員会に提出された鎌田座長直筆の資料にあるとおり、検討委員会の議論が、「マイカーへの過度の依存からの脱却」という明確な方向性のもと、「マイカーへ投じている費用を交通側へ引き寄せて、それも財源と考えて、望ましいモビリティの姿を描く」という斬新な視点を提示したからだと考えております。

運輸総研では、この「高齢者等の移動手段確保方策検討に関する調査研究」の成果を書籍の形にして世の中に発信するべく準備を進めているところであり、また、人口減少・高齢化社会においていかに地域住民の足を確保するかという問題について、今後とも引き続き調査研究を精力的に進めるとともに、本日のようなシンポジウムやセミナーの場を活用して、皆様と一緒に考察を深めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。この後、今後の予定のお知らせがあります。また、アンケートへのご協力も、よろしくお願いいたします。

本日は、最後までご参加いただき、誠にありがとうございました。